

1. 教育目標・教育方針

<p>【教育目標】</p> <p>1. 健康 じょうぶなからだ</p> <p>2. 豊かな情操 やさしいところ</p> <p>3. 思考と判断 かんがえてすすむ</p>	
<p>【教育方針】</p> <p>1. 遊びを中心にした年齢に合った体験を豊富にすることによって、子どもらしさ（生き生きとした・失敗を恐れない・意欲的な）と年齢にふさわしい自立・自律心を身につけること。また、集団生活を送ることにより、人との関わり方の基本を身につけること。</p> <p>2. 一人ひとりの子どもの意思や人格を尊重し、発達に応じたきめ細かい対応をする。家庭との信頼関係を築き、子どもの成長を共に確認し喜び合うこと。</p>	

2. 令和7年度に、重点的に取り組む目標・計画

<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度に実施した第三者評価の結果を受け、保護者及び職員向けに園の事業計画や報告、感染症発生状況などの情報発信の強化をはかる。 ・預かり保育については、年々利用者が増加していることもあり、必要な人員を確保し、子どもが安全・安心に過ごせるように努める。 ・教職員の各種研修への参加を進め、その育成をはかり、保育の質の向上を目指す。
--

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

<評価は3段階評価・令和7年12月～令和8年1月に実施した職員アンケート結果より>

評価項目	評価	取り組み状況
教育方針・目標	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズや運営環境の変化に対応できるよう情報収集につとめている。 ・保育教育目標や方針を理事長・園長が教職員に対して園内研修や会議等で直接伝えて、共通認識をはかっている。 ・新入園児保護者には園見学の際や入園説明会などで丁寧に説明している。在園児保護者には年度初めの保護者の会などで伝えている。外部向けにはホームページに掲載している。

教育課程・指導計画の編成・振り返り	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が子どもの実態を把握し、状況に応じたカリキュラムを作成している。カリキュラム会議では学期や月毎の指導計画等を策定し、個別対応の情報交換も行っている。 ・振り返りを行っているが、今後更に改善につなげていけるようにしたい。 ・幼保連携型認定こども園として、幼稚園機能と保育園機能の認識の共有が更に進むように努める。
人材育成・確保 働きやすい環境	C	<ul style="list-style-type: none"> ・常に多忙な状況が続いている。適正な人員配置、必要な人材の確保に努め、業務内容の見直し・効率化もはかっている。 ・人材の充足や欠員が生じた場合の補充に引き続き努める。勤務歴が浅く若い教職員には、指導的立場の教職員が中心となり、声をかけたり気づきを伝えて、教育・保育の質を上げるようにしている。 ・心身に過度の負担がかからぬよう余裕をもって仕事ができる環境づくりに努める。また、意見を言いやすく風通しのいい職場環境を目指す。
教育・保育の内容と方法	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもを教職員全員が大切にしており、子どもの状況にあわせた保育を行うことを日々心掛けている。 ・個別の支援が必要な子どもが多くいる。補助教諭がつき安心できる環境整備に努めているが、人材確保を含め今後も継続した対応が必要。 ・朝礼・終礼、会議、園内研修などで、子どもの状況や取組の様子、課題などについて常に意識を共有している。 ・もりのこ（保育園部門）ではテーマ別の毎月の勉強会を年間計画に取り入れている。
施設・環境整備	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は本館の保育室3部屋の空調機器を新しくした。掃除、換気、湿度の管理にも配慮している。 ・本館前の通路も全面的な改修を実施し、ウッドデッキから、段差が少なく頑丈なコンクリート敷きに変更した。 ・回転遊具を新調した。遊具や施設は日々点検し、危険箇所もチェックしている。 ・園庭の記念館東側の一部を整備して、乳児らが安心して遊べる環境を整備していきたい。
安全・衛生関連の取組	A	<ul style="list-style-type: none"> ・産業医を含む安全衛生委員会を月1回開催、課題の洗い出しや解決をはかっている。 ・アレルギー疾患、慢性疾患等の子どもについては、保護者からの情報収集に努め確実に教職員で共有している。アレルギー児には、個別対応が必要な場合でも寂しい思いをしないよう工夫している。 ・感染症が多く発生する時期には毎週感染者数を保護者あてにメール配信することを昨年度3学期に開始し、今年度も継続している。 ・子どものケガや体調不良発生時には、教職員が保護者と連絡をとり早急に対応するようにしている。

情報の発信と受信	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対し、園での子どもの様子を連絡帳や電話、送迎時の対面などでこまめに伝えている。 ・保護者向け案内、園児募集、未就園児向け活動、教員募集などで、メール配信・HP掲載等での情報発信を進めており、受信者・発信者双方の利便性の向上をはかっている。 ・欠席連絡、給食や預かり保育等の利用申込、園バス運行状況連絡などさまざまな面でIT利用を進めている。
地域、関係機関との関わり	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の、0歳から入園前までの子どもと保護者を対象にしたプログラム「さくらんぼちゃん」を、幼稚園部門・保育園部門で協力して月1～2回実施している。教職員による相談対応や遊びの紹介を行っており、初めて幼稚園に来るきっかけにしたり、親子の交流の場としても利用してもらっている。

4. 総合的な評価と今後取り組むべき課題

<ul style="list-style-type: none"> ・保育園部門において今年度から秋山美樹保育教諭が副園長を務めている。これまでのもりのこの保育を継承し、子どもと保護者に寄り添った保育を行っている。 ・予定していた本館正面のウッドデッキ部分を改修し利便性、安全性を向上させることができた。空調機器など、経年による修理や取替が必要な設備についても随時対応している。 ・一人ひとりの子どもを教職員が大事にし、支援が必要な子どもには補助の先生がついて子どもが安心できる環境を作っている。一方で、教職員の負担軽減が喫緊の課題となっており、業務量、仕事の進め方の見直しが引き続き課題となっている。 ・幼稚園部門と保育園部門が欠勤等で人員不足の際には互いに融通しカバーし合うなどして対応している。今後も適正な人員配置、調整を臨機応変に行い、教職員が余裕をもって仕事ができるようにしていきたい。また、若い教職員も多いので教職員の情報共有、園内研修をさらに進め、質の向上を図りたい。 ・インターネットの活用を年々進めており、保護者の利便性の向上、教職員の負担軽減に寄与している。今後も更に進めていく。
--